

遠州鉄道 高架開通を祝って赤電出発



総勢19人によるテープカット

総合的なまちづくりの推進 地域の活性化に期待

「赤電」の愛称で親しまれる赤い電車が、高架駅になった遠州鉄道上島駅のプラットフォームに停車する。助信駅から馬込川交差付近まで3.3kmの高架事業が完了し、2012年11月24日、上島駅で高架開通記念式典が開催され、記念列車が運行した。市民や行政、鉄道関係者等約150人が、8年がかりの工事の完成を祝った。

文●香田朝子／写真●加藤有紀

高架化と進むまちづくり

遠州鉄道の高架事業は、第1期として、新浜松駅から助信駅までの約2.6km区間に1985年に完成している。これは72年に決定した浜松市の「都市高速鉄道（東海道本線・遠州鉄道線）都市計画」に基づき、79年に工事が完了した東海道本線高架事業に続き、静岡県が80年に事業認可を取得して整備を進めている。

今回、工事が完了したのは、第1期の延伸となる第2期高架事業で、助信駅から馬込川交差付近までの約3.3km。2004年11月に事業認可を受け、着工。07年4月1日、政令指定都市移行に伴い、静岡県から浜松市に事業が移譲された。すでに完成していた第1期区間と合わせると、遠州鉄道の高架区間は、新浜松駅から馬込川交差付近までの約5.3kmとなった。

この第2期区間には、鉄道と交差する道路に都市計画道路（市道）が3路線、その他の市道14路線の計17路線があり、高架化により17カ所の交差が解消されるとともに、区間内にある21カ所の踏切が撤去された。また、助信駅、曳馬駅、上島駅の3駅はパリアフリーの高架駅として、新たに整備されている。

総事業費は約196.7億円で、国・県・市が約171.2億円を、遠州鉄道が約25.5億円を負担した。高架の延伸はこれで完了となる。

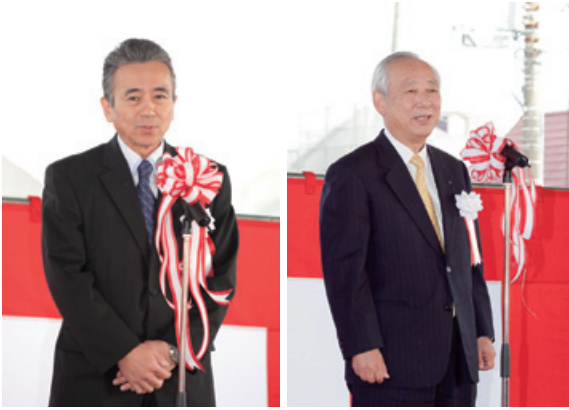
高架下を走る市道の有玉南中田島線については、既設の線路を撤去した後、跡地を利用して現在の20m幅員から30mの4車線

へ拡張する。2013年度中の完成が予定されており、高架化した3駅についても、東側または西側の1カ所の出入口で開業したが、道路の整備と並行して東西両方向に出入口を設け、自由通路を設ける計画となっている。市は、駅前広場や駐輪場など、駅に関連する諸施設も一新し、駅を中心とした活気あるまちづくりを進めていく方針だ。

地域の活性化と魅力ある市街地形成へ

高架開通記念式典は、開業初日の11月24日に上島駅で開かれ、鈴木康友浜松市長、遠州鉄道の竹内善一郎社長の他、事業を所管する国土交通省・静岡県・浜松市の行政関係者、県選出国會議員、県・市議會議員、地元市民や鉄道関係者等約150人が出席した。

式典では、鈴木市長が「本事業は県が事業主体となってスタートし、政令指定都市に移行した07年からは浜松市が事業主体となり、遠州鉄道と共に事業を推進してきた。この高架事業と併せて進めてきた周辺の整備が民間投資を誘発し、この地域の活性化とさらなる発展につながることを願っている」とあいさつ。竹内社長は「全国の地方鉄道が非常に厳しい経営環境に置かれている中で、一地方鉄道である私どもがこのような素晴らしい施設で鉄道経営をさせていたいただけることに心から感謝を申し上げます。沿線の皆さまに50年、100年ご愛顧いただけるように努力していく」と謝辞を述べた。また、式典に続き、プラットフォームに会場を移して行われた記念列車出発式では、



記念式典であいさつする鈴木市長 事業完成の謝辞を述べる竹内社長



高架開通を祝い、くす玉を割る出席者



高架化された上島駅と旧線のホーム



11月24日未明に行われた線路切替工事（写真・遠州鉄道株式会社）

■ 遠州鉄道第1期・第2期高架事業のあゆみ

- 1979.10 東海道本線 高架開通
- 1980.10 「遠州鉄道連続立体交差事業」認可取得（静岡県）
- 1982.10 浜松駅北口駅前広場完成
- 1985.12 遠州鉄道第1期高架事業完成 高架開通
- 2004.11 「遠州鉄道連続立体交差事業」認可取得（静岡県）
- 2007.4 政令指定都市「浜松市」誕生。静岡県から浜松市に事業移譲
- 2011.10 鉄道高架橋本体・高架駅舎建築（3駅）工事完成
- 2012.11 遠州鉄道第2期高架事業完成 高架開通



地元の幼稚園児から記念列車の運転士と車掌に花束が贈られ、来賓と関係者、総勢19人によるテープカットで開通を祝った。

8年がかりで完成したこの遠州鉄道第2期高架事業には、「踏切に起因する事故がなくなり、地域の住民にとって安全なまちになる」「渋滞の解消により東西方向の交通がスムーズになるとともに、幹線道路の整備で道路ネットワークが充実する」「線路による

東西の分断がなくなり、地域の一体化したまちづくりが可能になる」など、さまざまな事業効果が期待されている。

遠州鉄道では、高架開通に伴い、始発電車の発車時刻を10分繰り上げ、通勤ラッシュ時に上下線で1本ずつ増便するなど、ダイヤ改正を実施した。鉄道サービスの質を高めることで、地域の活性化と魅力的な市街地の形成に貢献していく考えだ。